

## 特別企画

### 部活動、激動の4年間。

私が4年間大学水泳部に所属していた間、その部活のあり様の変化は著しいものであった。入部当初の大学プールには、5m フラッグはおろか、コースロープすらない状況であり、練習は波との戦いであった。また衛生管理も悪い意味で「適当」であり、藻が発生して緑色のプールで泳いだ事もあった。また当時は3年の夏で引退、それ以降は就職活動、就職活動終了後は希望者だけ部活に参加するという方針であり、私が1学年時の4年生の中には3月の追い出しコンパで初対面というのも珍しくなかった状況であった。私が入学前に持っていた大学の体育会系のイメージとは大きく違っていた。

私が2年になり後輩が入ってきて雰囲気は大きく変わった。それまでいなかった高いレベルの後輩が入ってきたためである。練習の回数は一般的な運動部と比べ、まだまだ少ないもののOBの清水コーチもついた事でその質は大きく上がり、部の雰囲気は少し運動部らしくなった。この夏に3年生で引退というのは変わり、2人の先輩が就職活動、大学院試験と並行して部活動を続けるようになったことも影響している。また、学生部、父母会、桜友会の理解をいただき、コースロープ、スタート台、ガスによる風呂などが次々に整備された事、ダイビング部やトライアスロン同好会とともにプール管理委員会が発足したこともあり、環境も次第に改善していった。

3年生になり、また部の雰囲気は大きく変わった。後輩が一気に増え、競泳部門だけで40名を越す大所帯になった事、そして夏の関東学生選手権で初めて順位がついたためである。関東インカレ4部51得点総合6位という数字は、翌年の4部優勝という目標を明確にし、ちょうどその時、男子主将となった。

優勝という目標のためにどうするか考え、その結果、更なる練習環境の改善をする事にした。冬場の練習場確保と大学プールの衛生改善である。部員の大幅な増加と東北大震災の影響でそれまで冬場に使っていたプールが使えなくなったため、都内の他大学のプールや公共施設、スポーツクラブ計200箇所以上を片っ端から調べ、電話や直接訪問して貸してもらえないか交渉した。話を取り合ってくれない所や、学生の予算では明らかに無理な料金を提示された所もあったが、根気強く続けた結果、男子部や、成蹊大学の繋がりから藤村学園とスポーツクラブルネサンス早稲田から了解をもらい、冬場も水泳に打ち込める環境を作れた。

4年になり最後のシーズンを迎えたが、前年から設置された自動塩素供給機が十分使いこなせなかったり、循環器が十分に機能しなかったりと、依然として塩素濃度と藻と格闘していた。濃度が高いと管理ルール上使用停止、低いと藻が発生（特に雨の翌日等）というシビアなもので、練習がない日もほとんど毎日プールを見て回り、天気に合わせて調整していた。朝7時からの練習の時も、4時台の始発電車に乗り、誰よりも先にプール入りし、チェックしていた。

そうしてシーズンには集中して練習に取り組み、8月の関東学生選手権では目標通り四部優勝、三部昇格を飾ることができた。一年前の夏に優勝することを誓って先輩から役職を引き継ぎ、一年間そのことだけを考え、冬場の学外のプールを探し、大学プールの管理をやってきて、ついにその結果が報われたので非常に嬉しかった。

4年間の部活動では、競泳部門も私自身も大きく成長することができた。入部当初は考えもつかないような激動の4年間であったが、今となっては本当に水泳部競泳部門に入ってよかったと感じている。素晴らしい仲間たちに、感謝。

水泳部競泳部門 男子主将 眞西瑞樹  
経済学部経済学科 2013年3月卒業  
ネットヨタ神奈川(株) 2013年4月入社



第85回関東学生選手権水泳競技大会 男子4部優勝カップ

2012/8/6